

岡山のとしょかん

岡山県図書館協会報
(第128号)

岡山県学校図書館協議会司書部会の紹介

発足して半世紀を迎えます

岡山県学校図書館協議会司書部会（以下「司書部会」）は、岡山県下の学校司書の資質向上と専門性の追求をめざし、学校図書館の充実と発展に資することを目的に、昭和45年に発足しました。県下小・中・高等学校の学校司書を中心に現在の会員は500名に上ります。司書部会がまもなく発足50年を迎えることから、今年度は50周年記念大会や関連行事を開催しています。本稿では、当会について広く知っていただけるようその活動内容や記念行事「パネル展」について紹介します。

こんな活動をしています

司書部会の活動は主に、①研究協議会・研修会（隔年で交互に開催）の実施、②学校司書実態調査の実施、③ホームページの運営の3つが挙げられます。①は、年に一度県下の学校司書が地域や校種を越えて一堂に会する大会です。学校司書は、多様な資料や情報の中から子どもたちや教職員に適切なものを手渡す専門性が求められます。また、目まぐるしく変化する社会や教育の動きに対応するために、常に新しい情報を吸収することも欠かせません。そこでこの大会では、各学校での実践や地区研修の成果を持ち寄り研究を深め、情報交換を行うなどして知識や技能を高める場としています。②は、県内学校司書の配置状況や雇用形態等を把握することをねらいとして毎年岡山県学校図書館協議会加盟校を対象に行っている調査です。そして、データの収集・分析を通して明らかになった現

状と問題点を①の大会で報告し、会員内での情報共有を図っています。学校図書館がその機能を十分に発揮し日常的に活用されるためには、学校司書の配置が不可欠です。また長期的な視野に立って運営を行うには、雇用や勤務の形態も疎かにできません。今後学校司書の配置をより充実させるという観点からも大切な調査となっています。③ホームページは、司書部会の活動を内外に知ってもらうことを目的に運営しています。①の大会記録や②の県内学校司書の配置状況・地区別の活動内容等を中心に掲載しています。このように、司書部会は様々な活動を通じて県内学校図書館の充実に寄与しています。

パネル展を開催中です

最後に50周年記念行事パネル展「読む・知る・学ぶ 岡山県の学校図書館」を紹介します。このパネル展は、学校図書館への理解を広めるために企画しました。子どもたちが読書を楽しみ、学びをひろげ、地域の方々と交流している写真を通して、いきいきとした学校図書館の様子をご覧いただけます。展示は、今年の8月から来年2月まで県内の公共図書館18館を巡回します。展示日程については、ぜひ司書部会ホームページ URL:<http://okayamasisho.qee.jp/>にてご確認ください。

(岡山県立岡山芳泉高等学校 成本由貴)



[パネル展(岡山県立図書館)の様子]

高梁市図書館

高梁市図書館では、平成29年3月より、民間事業のノウハウを生かし、利用者の増加、利便性の向上を目的とした、移動図書館での物品販売を開始しました。遠隔地の「買い物支援」をテーマに、書籍や日用品、パン等を高梁市内の店舗から仕入れ、販売しています。

どのような商品が必要とされているのか、どういった要望があるのか、何もわからない状態で開始し手探りでの運営でした。各巡回地で貸出や販売を行いながら、利用者からの意見を伺い少しずつ改善をしたことで、利用者も徐々に増えてきていました。しかし、昨年7月の豪雨災害で移動図書館車が被災し、移動図書館は代車で運行は再開しましたが、物品販売は車内スペースの関係でやむなく中断となってしまいました。

今年7月、新しい図書館車の運行がスタートし、物品販売も再開しました。利用者にとってより使いやすく、楽しい移動図書館車を目指し、今後も改善を続けていきます。

(高梁市図書館 布施優太)



[買い物支援開始当初の様子]



図書館をもっと身近に

備前市立図書館

備前市立図書館では、市内を4つのコースに分け、月に1回の巡回サービスを行っています。

その中に日生諸島の頭島（かしらじま）があります。以前は移動図書館車を船に乗せて島に渡っていましたが、平成27年4月に備前♥日生大橋が開通したので、今では海の上にかかる橋を渡って島へ渡っています。お天気のいい日には小豆島が見えます。

島の人口も減りつつあり高齢化が進んでいますが、毎月の巡回を楽しみにされて、移動図書館車が着くより先に停留所で待たれている事もあります。移動図書館車の内側と外側で職員が対応し、最近の話題の本やTVで紹介のあった本、趣味の話・ローカルな話など、いつも楽しくお喋りが弾んでいます。30分と限られた時間の中で、利用者のニーズを把握して次回の巡回日にリクエスト本などを積んでいきます。職員も日々の生活の中で常にアンテナを張り、面白い話や本について勉強をしています。

これからも、毎月の巡回日が待ち遠しく、楽しい時間を過ごしてもらえるように、日々の業務の中で考えながら、行っていききたいと思います。



[日生諸島の頭島での様子]

(備前市立図書館日生分館 妹尾知絵)



[ブックるん まにわ出発式の様子]

真庭市立図書館

真庭市立図書館では、昨年度まで蒜山・湯原地域限定で巡回していた大型の自動車文庫の車両を更新し、今年7月から市内全域を対象に巡回を始めました。

自動車文庫の愛称「ブックるん まにわ」は公募で選ばれ、出発式で発表されました。図書館から離れた地域に住む方の地理的負担を軽減

し、多くの方に図書をお届けすることができるよう、約1,000冊の図書を積んで月に10日程度巡回しています。巡回開始からすぐに、「楽しみに待っていたよ」と巡回先の方々に温かく迎えられ、地域交流の場として定着しつつあります。

今年度は市内全域での運行初年度なので、3カ月ごとに時間・場所の見直しを行い、利用者にとってより良い運行日程となるよう、調整しながら運行します。

真庭市にお越しの際「ブックるん まにわ」に出会うことができましたら、閲覧自由ですので、是非お立ち寄りください。

(真庭市立中央図書館 池田政師)

～飛び出せ図書館！～



[大野コミュニティカフェでの様子]

美作市立図書館

美作市立図書館では、今年度、移動図書館車の整備を計画しています。この計画に際して、昨年度から地域のカフェや集会所などに出向き、本の貸出を行う「出張図書館」を実施しています。図書館の職員が公用車に書籍を積んで、図書館へ来館することが困難な遠方の地域を中心に outgoing、新規利用者の開拓と図書館の利用促進、読書活動の推進を目的に行っています。

現在は月1回のペースで、市内2カ所のコミュニティカフェに約200～300冊の本を届けています。なかなか図書館に足を運ぶことの出来ない市民の方に、本に触れ親しんでもらうことはもちろん、市立図書館について「知る」、良い機会となっています。また、夏休み期間には学校図書室の開放日にあわせて出張図書館を実施し、生徒児童・保護者・教員の皆様に本に触れる機会を提供しました。このような活動から、最近では放課後児童クラブからの要望もあり、出張先の拡大も検討中です。

今後は移動図書館車の導入によってさらに多くの方に読書を楽しんでもらえるようなサービスを行いたいと考えています。

(美作市立中央図書館 遠藤絵美)

身近に本を届けたい ～津山市立図書館「カリコレ」の挑戦～

「カリコレ」について、岡山県内では何度か報告をさせていただいているので、ご存じの方も多いと思います。「カリコレ」は津山市立図書館と市内IT企業の株式会社ワードシステムが共同開発したサテライト貸出システムです。「カリコレ」の導入により従来の団体貸出を一步進め、団体貸出先の地域やグループが図書館から借りた本の情報を取り込んで簡易に貸出・返却ができるようになります。図書館が直接サービスを展開するには人も施設も経費も必要ですが、第三の選択肢として団体貸出を利用する団体と協働で、読者の身近にポストの数ほど図書館を開けるかもしれません。図書館に来館しにくい読者の近くに本を届けることで、本の周りに人の交流が生まれ、読書の楽しみが広がることを願い、津山市では今年度、「カリコレ」を使ったサテライト貸出の試行を行っています。



[美作大学図書館の「カリコレ」コーナー、「カリコレ」のトップ画面]

(津山市立図書館 大河原信子)

図書館をもっと身近に～図書館のその先に～

村じゅうをまるごと図書館に！ ～あわくら会館子ども図書館の取組～

西栗倉村立あわくら会館子ども図書館では、平成29年度より、誰でも本を手にすることができ、本を通じて村民同士の“つながり”を一層密にできるように、「むらまるごと図書館事業」実施しています。

現在、村内の商店、事業所、公共施設、飲食店、医院等の7つの施設に小さな図書館を設置し、施設の利用者に合わせて各図書館長が本を選んで並べています。

定期的に「むらまるごと図書館」の館長が集まり、各図書館の特色やPOPの工夫、利用者からの感想等の情報交換をしながら、村民により利用していただける図書館になるように館長同士でアイデアを出し合っています。

利用者からは、「買い物のついでに立ち寄れるのが便利」、「会社の休憩室に本があるので気軽に手に取ることができ、従業員同士の会話が増えた」という声をいただいています。



[むらまるごと図書館の様子]

(西栗倉村立あわくら会館子ども図書館 葛木伸一郎)

片岡鉄兵文学記念室 — 図書館のお宝紹介 (第5回) —

人それぞれ好みはあると思いますが、鏡野町立図書館の一角に、男前が出迎えてくれる一室があります。それが、片岡鉄兵文学記念室です。



[片岡鉄兵]

片岡鉄兵は、1894年に鏡野町（当時は苫田郡芳野村）に生まれた小説家です。小説家になる夢を抱いて2度上京しますが、いずれも失意の内に帰郷。1920年執筆の「舌」が認められ、やっと念願の文壇デビューを果たします。最初は川端康成らと共に新感覚派の作家として活動しましたが、その後プロレタリア文学へ、そして服役を経て大衆文学へと、2度の転向をしています。

鉄兵は大衆文学への転向を表明した後、鏡野町へ一度戻り、講演会を開いています。その時に鉄兵に会い、その人柄と作品に心酔した一人の少年がいました。故宇佐見陳正氏です。以後、鉄兵の著作を始めとする資料を収集、愛読されていた宇佐見氏が、図書館開館に合わせて全ての資料をご寄贈くださり、この文学記念室ができました。

鉄兵は大衆文学への転向を表明した後、鏡野町へ一度戻り、講演会を開いています。その時に鉄兵に会い、その人柄と作品に心酔した一人の少年がいました。故宇佐見陳正氏です。以後、鉄兵の著作を始めとする資料を収集、愛読されていた宇佐見氏が、図書館開館に合わせて全ての資料をご寄贈くださり、この文学記念室ができました。



[宇佐見氏寄贈の資料]

鉄兵は、その多彩な経歴の割にほとんど注目されていない小説家と言えます。ですが、記念室にぐるりと掲げられた（記念室は円形です。）年表を辿り、作品を始めとする関連資料を読むと、片岡鉄兵という人に今すぐ会って話をしたいと思うほど、魅力的な人物像が浮かび上がってきます。地主の家に生まれ、成績優等な鉄兵少年が、やがて作家となり、新しい時代を見据えた文筆活動をし、家族と生活のために転向を余儀なくされても、その信念はおそらく生涯変えていなかったであろうことも伺えます。

没後に建立された鉄兵の文学碑とブロンズ胸像除幕式には、親交のあった川端康成夫妻の出席もあり、その時の写真も見ることができます。今、その碑と像は、記念室や図書館がある総合文化施設ペスタロッジ館の入口にあります。碑には川端康成の筆で、鉄兵が好んだ「海と大空の中の一点のわたしを孤独と思え」という言葉が刻まれています。



[文学記念碑]



[川端康成筆]

関連資料はほとんどがガラスケースの中に保存され、いつでも手に取って見ていただけるわけではないのですが、作品集などは図書館資料として貸出できるものがあります。転向を経た作品を読み比べたり、男前な小説家をぜひご覧ください。

(鏡野町立図書館 福島久美子)

県図協セミナー（第1回）に参加して

「公共図書館は『第三の場』たりうるか」

期日：令和元年6月3日（月）

講師：久野 和子氏（神戸女子大学准教授）

これからの図書館を考えるうえで何か参考になるかという思いで、久野和子氏のお話を聴かせていただいた。

オールデンバーグの「第三の場」とは、「コミュニティの核になるとびきり居心地よい場所」ということである。現在の図書館は、本を借りたり調べ物をするところ、静かにしていなければならないところ、など堅苦しく居心地の悪い場所となっていないだろうか。図書館職員の抱く図書館像と、コミュニティの人々や利用者の抱くものとは、かけ離れているのではなかろうか。

久野氏が、海外における図書館の先進事例を紹介されたが、事例の一つひとつが新鮮に映った。後日、映画『ニューヨーク公共図書館 エクス・リブリス』を見る機会を得た。コミュニティにおいて、図書館が「第三の場」として大変身近な存在になっており、久野氏の「第三の



〔県図協セミナーの様子〕

場」のお話に通じるものがあつた。

これからの図書館は、既存のサービスに増して、「多様な空間と場の提供」が求

められている。もっと柔軟な発想で、可能なことから手掛けていかななくてはと、将来の金光図書館像を夢想している。当館の初代館長は、「図書館のための図書館では意味がない。利用され、活用され生きてお役に立つ図書館でなくてはならない」と述べている。人々の暮らしの中に図書館がなくてはならないというような図書館を目指したい。

（金光図書館 金光研治）

第94回教養講座に参加して

「これでOK！プロが教える集客につながるチラシ作りのコツ」

期日：令和元年8月16日（金）

講師：藤野 邦博氏（藤野デザイン事務所代表）

三宅 里佳氏（㈲オフィスミヤ代表 クールおかやま編集長）

以前、イベントを計画したとき、予想より参加者が少なかったことから、チラシをどのように修正したら良かったのか、振り返りのチャンスと思い講座を受講しました。

まず、基礎として5W1Hの正しい使い方を学びました。ただ、それだけでは集客に繋がりません。

チラシの読み手は、チラシが目にとまり内容に興味を持ち、自分にとって「イイコト」があるかを理解すると、「行きたい！」と思い行動に移します。読み手の思いや行動を常に意識することが大切です。

次に、チラシ作成のポイントを学びました。「キャッチコピーは紙面の3分の1から4分の1まで。」「画像の方がイラストより信ぴょう性を持たせられる。イラストを使うときは著作権に注意する。」などを学びました。

また、イベントの立て方についても教えていただきました。イベントを計画するとき、自らが楽しみながら計画することが大切です。

ワークショップでは各班に分かれ、講師の助言をもらいながら、参加者が持参したチラシをよりよいチラシへと磨きをかけました。

今回学んだことを、今後の仕事に生かしていきたいと思います。

（倉敷市立穂井田小学校 西山洋子）



〔教養講座の様子〕



〔教養講座の様子〕

真備図書館の現状

平成30年の7月豪雨で水没した真備図書館は、地域の住民の読書環境回復のため、平成31年1月から市内6か所の建設型仮設住宅と真備公民館に、それぞれ月1回移動図書館車による巡回サービスを実施している。

4月・5月・6月の真備公民館への運行時には、読み聞かせボランティアの協力のもと「小さな図書館」と題し、おはなし会も行った。被災し仮設住宅に住んでいる人から、「本を読んでいるときだけは、気がまぎれる。本を持ってきてくれてうれしい」と喜ばれた。

更に、令和元年7月23日から真備公民館の1室で仮設真備図書館を開館し、予約資料の受け取り、本の閲覧など一部の図書館業務を再開した。30㎡の狭いスペースにはなるが、貸し出し中で被災を免れた本・雑誌と、寄贈でいただいた大型絵本など3,400冊を配架している。予約本を含め、7月は1,250冊、8月には4,700冊の本が貸し出された。「(本もスペースも)これだけか」と言う利用者もいたが、「(わざわざ真備地区でない)船穂・玉島などに行かなくても、近くなってうれしい」という声が多い。

8月は読み聞かせボランティアの皆さんが毎日交代でおはなし会をしてくださり、計15回のべ64人が読み聞かせを楽しんだ。9月からは真備図書館で活動していた読書グループも読み聞かせに加わり、おはなし会を継続する予定だ。

(倉敷市立真備図書館 藤井広美)



[館長や職員が笑顔でお迎えます]

事務局から

真備図書館は、令和3年1月までに再建するという復興計画が示されました(開館の時期は未定)。また、高梁市図書館では特集でも報告のあったように被災した移動図書館車が新しく買い換えられ運行されています。このように、豪雨からの復興が進む中、今年の9月にも新見地域で豪雨による甚大な被害が発生しました。今後も未曾有の災害がいつどこで起きるかわかりません。災害が起きたときに協力し合う仕組みとして当協会には大きな役割があると考えています。

災害の記録を図書館に

平成30年7月豪雨では、甚大な被害が県内各地で発生いたしました。

被害状況の報告や救援活動の様子、復興計画など、それぞれの地域に関する資料や情報の収集・提供は、図書館が住民に対して負っている責務です。図書館は、災害の記憶と記録を風化させることなく、後世に引き継ぐために、関連資料の収集に取り組んでいかなければなりません。

そこで、岡山県図書館協会では、貴重な地域資料の散逸を防ぐとともに、広く図書館の役割を知ってもらうために、ポスターを作成し災害関連資料の寄贈の呼びかけを行っています。

施設会員には各館に1枚ずつ配布しています。施設会員で追加配布の希望や個人会員の方でご入り用の場合は、事務局までご連絡ください。

災害の記録を図書館に
平成30年7月豪雨関連資料をご寄贈ください

図書館では、災害の記憶と記録を風化させることなく、後世に引き継ぐため、関連資料の収集に取り組んでいます。

岡山県立真備図書館の仮設館内。被災した真備図書館の仮設館内。写真：岡山県立真備図書館

このような資料がありましたら、ぜひ図書館にお届けください。

- 災害関連の記録集、写真集、DVD、動画
- 災害に関する調査報告書、復旧・復興計画書
- 災害に関連するイベント、セミナー、相談会などの資料
- 個人・団体が作成した手記・文集
- 各種活動記録(ボランティア記録・避難所だよりなど)
- フリーペーパー、ミニコミ誌、会報、広報誌など

寄贈の形態については、お近くの図書館または岡山県図書館協会事務局へお尋ねください。なお、複製された資料は図書館に帰属し、一部は公開を希望するお断りいたします。

県立図書館では、電子図書館「デジタル岡山」で、デジタル資料の収集・提供を行っています。紙複製に限り、デジタル複製もお断りできません。詳しくは図書館「デジタル岡山」へお尋ねください。

岡山県図書館協会

岡山県北地区の21ヶ所 岡山県立図書館 岡山県立図書館内
岡山県南地区の11ヶ所 岡山県立図書館 岡山県立図書館内
岡山県東地区の11ヶ所 岡山県立図書館 岡山県立図書館内
岡山県西地区の11ヶ所 岡山県立図書館 岡山県立図書館内

岡山県立図書館協会
岡山県立図書館協会事務局
〒700-0923 岡山県北地区の21ヶ所 岡山県立図書館 岡山県立図書館内
TEL:086-224-1284 FAX:086-224-1208

お知らせ

■理事会・定期総会

令和元年度理事会を5月21日に、定期総会を6月3日に開催しました。当日資料および議事録は協会ホームページで公開しています。

【令和元年度役員（敬称・役職略）】

- 会 長 (施) 岡山県立図書館 狩屋 幸司
 - 副会長 (施) 岡山市立中央図書館 宮本 嘉彦
 - 〃 (施) 岡山大学附属図書館 今津 勝紀
 - 理 事 (施) 倉敷市立中央図書館 吉田 守
 - 〃 (施) 総社市図書館 矢吹 慎一
 - 〃 (施) 岡山県立大学附属図書館 難波久美子
 - 〃 (施) 金光図書館 金光 英子
 - 〃 (個) 学校司書 成本 由貴
 - 〃 (個) 青年図書館員研修会 佐藤 賢二
 - 〃 (個) J L A代議員 菱川 廣光
 - 監 事 (施) 津山市立図書館 大河原信子
 - 〃 (施) 早島町立図書館 三宅 康栄
 - 参 与 岡山県教育庁生涯学習課 小見山 晃
- 〈※ (施) 施設会員、(個) 個人会員の略〉

■本年度の研修

- 県図協セミナー（第1回） 6月3日
「公共図書館は『第三の場』たりうるか」
講師：久野 和子氏（神戸女子大学 准教授）
参加者：43名
- 教養講座 8月16日
「これでOK！プロが教える集客につながるチラシ作りのコツ」
講師：藤野 邦博氏（藤野デザイン事務所代表）
三宅 里佳氏（(有) オフィスマイク代表 クールおかやま編集長）
参加者：22名
- 県図協セミナー（第2回） 11月27日
「SNSを使った情報発信」
講師：中尾 孝司氏
（株）ビザビ コンテンツ開発局 グループマネージャー）
会場：岡山県立図書館
- 県図協セミナー（第3回） 12月11日

「絵本の修理について（仮）」
講師：石川 富男氏（(有) 大学製本所代表）
会場：岡山県立図書館

○県図協セミナー（第4回） 1月17日

「資料保存について（仮）」
講師：国立国会図書館職員
会場：岡山県立図書館

※第3・4回はどちらか一方に参加可能です。

■令和元年度企画委員

- 委 員 長 草木原圭子（岡山県立図書館）
- 副委員長 松岡 清夏（岡山市立中央図書館）
- 委 員 奥田 鈴美（倉敷市立中央図書館）
- 〃 長井 隆史（赤磐市立中央図書館）
- 〃 荒島恵美子（浅口市立鴨方図書館）
- 〃 福島久美子（鏡野町立図書館）
- 〃 大倉加奈江（美咲町立旭図書館）
- 〃 遠藤 聡美（中国学園図書館）
- 〃 山本 雅子（ノートルダム清心女子大学附属図書館）

■県図協セミナー（第1回）、教養講座の資料提供

先に開催されました標記の研修について、資料をご提供しています。研修へご参加いただけなかった方へのご提供も可能ですので、必要な方は事務局までご連絡ください。

■現在、募集中！

- 研修参加助成事業による令和元年度の派遣者を募集しています。今年度から隔年で申込みが可能になりました。ぜひご活用ください。
- 令和2年度研究奨励金の交付申請者も併せて募集しています。
- 当協会は令和3年に創立70周年を迎えます。記念事業を企画するにあたり、引き続き意見等の募集をしています。

令和元年9月30日発行
〒700-0823 岡山市北区丸の内2-6-30
岡山県立図書館 図書館振興課内
岡山県図書館協会 会長 狩屋 幸司
TEL：086-224-1286